

UR

UR Environmental Report 2023 DIGEST

独立行政法人都市再生機構 令和5年版環境報告書 ダイジェスト版



街に、ルネッサンス



UR 都市機構

独立行政法人都市再生機構

〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町 6-50-1
 横浜アイランドタワー5～16・19階(受付:5階)
 TEL 045-650-0111(代表)



UR 都市機構ホームページ
<https://www.ur-net.go.jp/e-report/>

UR Environmental Report 2023
 独立行政法人都市再生機構
 令和5年版環境報告書



環境報告書(本編)は、WEBから
 ダウンロードが可能です。
<https://www.ur-net.go.jp/e-report/>



再生紙を使用しています

URは、環境に配慮した取組みを様々な業務フィールドで進めています

URは、あらゆる分野において、幅広い関係者とのパートナーシップを充実・強化して、持続可能でレジリエンスの高い循環共生型のまちづくりを目指しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals) は、2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。URでは様々な事業の推進により、SDGsにも貢献していきます。

環境配慮方針

まちや住まいづくりを進めていく上でのURの環境に関する基本的な考え方として、平成17年度に「環境配慮方針」を策定、宣言しました。環境配慮方針は、URが目指すまちや住まいが環境にやさしいものであること、まちや住まいづくりの過程においても環境への負荷を少なくすること、さらに、このような目標は、私たちの取組みだけで達成されるものではなく、私たちの提供する環境をご利用になる皆さまと一緒に進めていくことを表現したものです。

「安全・安心・快適性」という概念も環境に包含させ、関係するステークホルダーと「対話を通して」、「ともに」環境について考えていく、という姿勢を盛り込んでいるのが、特筆すべき点と考えています。

持続可能な社会の実現に向けて、URが目指すべき姿であり、長期ビジョンとしての性格も兼ね備えています。

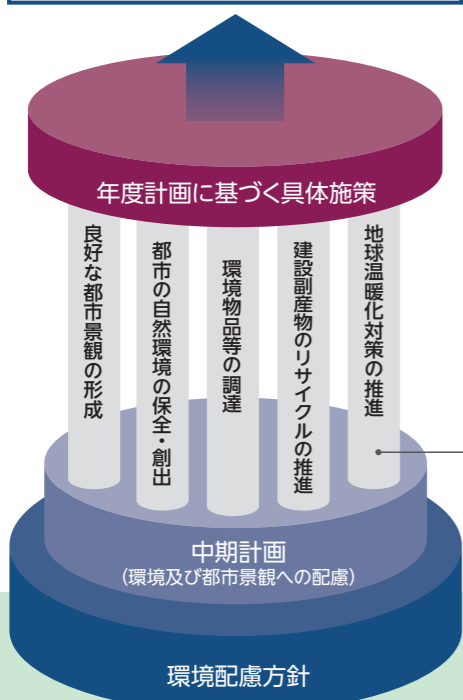
1. 環境にやさしいまちや住まいをつくります

- 1 都市の自然環境の保全・再生に努めます
- 2 まちや住まいの省エネ化を進めます
- 3 資源の有効利用と廃棄物の削減に努めます
- 4 まちや住まいの安全・安心と快適性を確保します
- 5 皆さまと一緒に環境に配慮したライフスタイルを考えます

2. 環境に配慮して事業を進めます

- 1 環境負荷の少ない事業執行に努めます
- 2 環境に関して皆さまとコミュニケーションを深めます

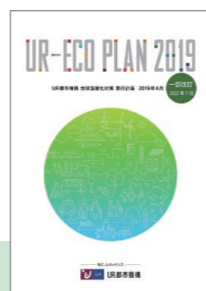
国の環境基本計画(重点戦略)への貢献



報告 >>>



環境報告書(本編)
<https://www.ur-net.go.jp/aboutus/action/kankyo/e-report/index.html>



UR-eco Plan 2019 (地球温暖化対策実行計画)
<https://www.ur-net.go.jp/aboutus/action/kankyo/e-report/ecoplan/index.html>



URは、国の政策実施機関として
60年以上にわたり政策課題に向き合ってきました。
その専門性・人材面での強みを活かし、
多様な主体との連携により、
様々な価値を創出し、
持続可能な社会の実現に貢献していきます。

URミッション
人が輝く都市をめざして、
美しく安全で快適なまちを
プロデュースします。

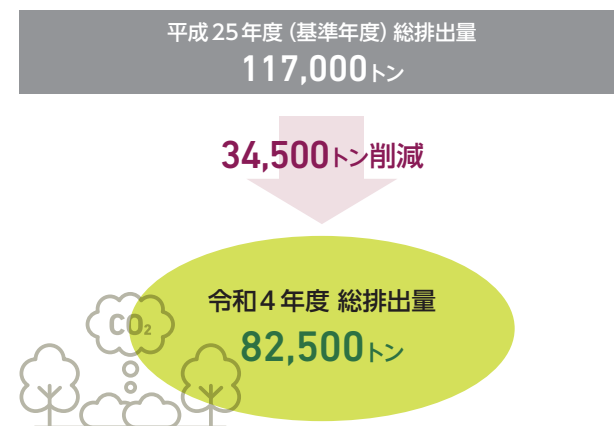
URスピリット
CS（お客様満足）を第一に、
新たな価値を創造します。
創意工夫し、積極果敢に
Challenge（挑戦）します。
力を結集し、Speedy（迅速）に
行動します。

令和4年度の主な環境活動の実績

地球温暖化対策（気候変動への対応）実績

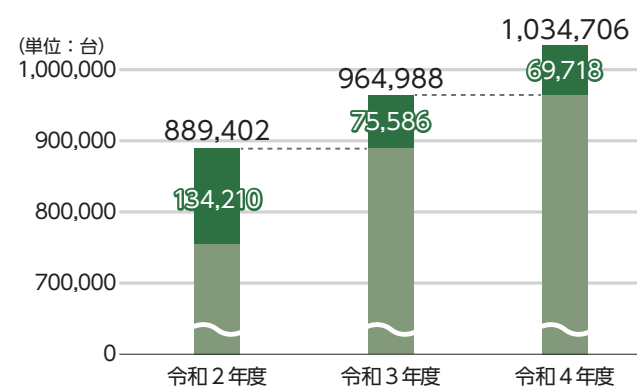
主体領域※におけるCO₂総排出量

※URが直接CO₂排出に関わっており、主体的に削減する領域



LED照明の導入（累計）

■ 単年度実績 ■ 前年度までの累計



資源循環（廃棄物の削減）実績

建設副産物の再資源化率等実績値（令和4年度に完了した請負金額500万円以上の工事）

再資源化率		再資源化・縮減率			有効利用率
コンクリート塊	アスファルト・コンクリート塊	建設発生木材	建設汚泥	建設廃棄物全体	建設発生土
99.7%	99.9%	99.7%	99.8%	98.4%	98.5%
目標値 99%以上	目標値 99%以上	目標値 97%以上	目標値 90%以上	目標値 98%以上	目標値 80%以上

※目標値：国の「建設リサイクル法基本方針」において設定された目標値

建物内装材の分別解体

主な建物内装材の再資源化率				
石膏ボード	塩化ビニール管・継手	畳	発泡スチロール	板ガラス
100.0%	100.0%	87.6%	100.0%	100.0%

※解体により生じる品目とその地域特性により再資源化率等は変動します

グリーン購入（物品、公共工事）

調達実績	特定品目調達実績（数値目標がある品目）
100%	15品目全て 100%
目標値 100%	目標値 100%（一部90%）

必要な機能・性能を有する判断の基準を満たす製品が市場に確認できなかったものを除く



泉北パークヒルズ竹城台（大阪府堺市南区）



アーバンラフレ虹ヶ丘東（愛知県名古屋市中東区）

自然環境（自然破壊への対応）

都市の自然環境の保全・再生に努めます。

事例紹介 「みどり」を核としたグラングリーン大阪のまちづくり

URが現在手掛けているうめきた2期地区では、約8haに及び、比類なき魅力を備えた「みどり」空間の創出や、ライフデザイン・イノベーションをテーマとした新産業の創出拠点の形成などによる「『みどり』と『イノベーション』の融合拠点」の実現を目指し、土地区画整理事業、防災公園街区整備事業を推進しています。

令和5年2月、三菱地所株式会社を代表企業とするグラングリーン大阪開発事業者JV9社は、「(仮称)うめきた2期地区開発事業」のプロジェクト名称を、「グラングリーン大阪 (GRAND GREEN OSAKA)」に決定し、「(仮称)うめきた公園」約4.5haを含む約9.1haのプロジェクト概要を発表しました。

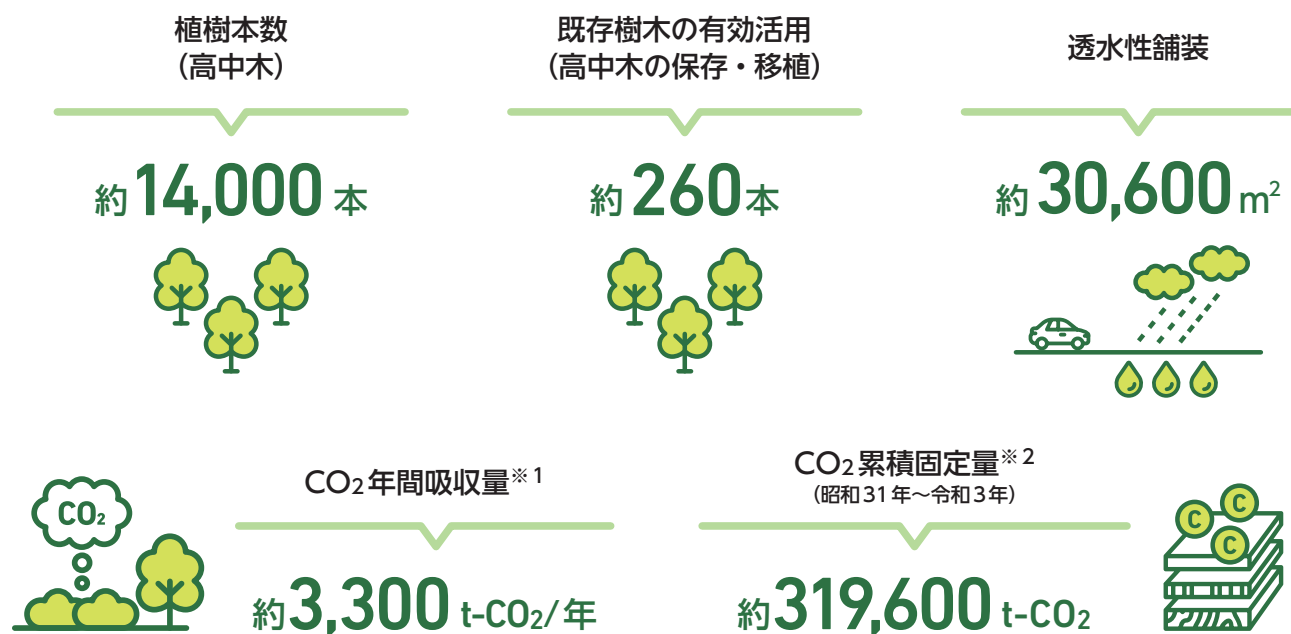
本公園は「未来へのひらめきと原動力となる『みどり』」をコンセプトに、敷地全体を一つの「みどり」の大地として捉えた一体的な設計をしているだけでなく、防災公園としての機能も備えています。

令和4年5月から公園工事に着手し、2025年大阪・関西万博開催に先立つ令和6年夏頃の先行開園、令和9年春頃の全面開園を目指して、事業を推進しています。



(仮称)うめきた公園 整備イメージ 提供：グラングリーン大阪開発事業者

自然環境（自然破壊への対応）実績



※1 管理開始後30年以内の賃貸住宅内にある樹高3.0m以上の樹木を対象として算定
 ※2 賃貸住宅内にある樹高3.0m以上の全樹木を対象として算定

環境コミュニケーション

健康や衛生にかかわるまち・住まいの安全・安心や快適性を確保します。

事例紹介 大学との協働による団地環境の魅力発掘

URは、大学と協力して自然環境に配慮した魅力的な居住環境の創造・維持や新たなコミュニティデザインを追求しています。サンヴァリエ中百舌鳥(大阪府堺市)では、大阪公立大学緑地計画学研究室と協力し、「公大×UR 屋外活用プロジェクト」を進めています。このプロジェクトは、団地の屋外環境整備を契機に、「より楽しく豊かな暮らしを実現できる住まいづくり」を目指しています。ワークショップでは、居住者と学生が一緒になって新しいアイデアを出し合いました。

泉南尾崎団地(大阪府阪南市)では、大阪芸術大学と協力して「アートプロジェクト」を実施しています。このプロジェクトは、アートを通じて新たなコミュニティデザインのあり方を模索し、団地の魅力創出を図ることを目的としています。イベントでは、大阪芸大の学生企画によるファッションショー、空き住戸での写真展示会、焚火音楽祭を開催しました。これらのイベントは、団地の屋外空間を活用し、地域の魅力を再発見する機会となりました。

今後も、様々な関係者と連携した取組みを継続することにより、自然環境に配慮した魅力的な居住環境の創造・維持や、新たなコミュニティデザインによる団地の魅力創出を図っていきます。これらの取組みは、居住者同士の交流を促し、団地や地域の魅力を高めることに繋がります。

サンヴァリエ中百舌鳥



屋外を使いこなすアイデアの発表

泉南尾崎団地



ファッションショーの撮影風景



お住まいの方々と学生の交流



焚火音楽祭